

令和6年度土木学会賞の受賞

○JR東日本コンサルタンツ株式会社は、公益社団法人 土木学会より土木学会賞を受賞しましたので、お知らせいたします。

○当社は、「御茶ノ水駅改良（周辺エリアと一体となり困難を克服して進めたバリアフリー化と駅前広場機能整備）」が技術賞Ⅱグループを受賞しました。

リンク（土木学会HP）：https://www.jsce.or.jp/prize/prize_list/p2024.shtml

■技術賞Ⅱグループ

御茶ノ水駅改良（周辺エリアと一体となり困難を克服して進めたバリアフリー化と駅前広場機能整備）

【概要】

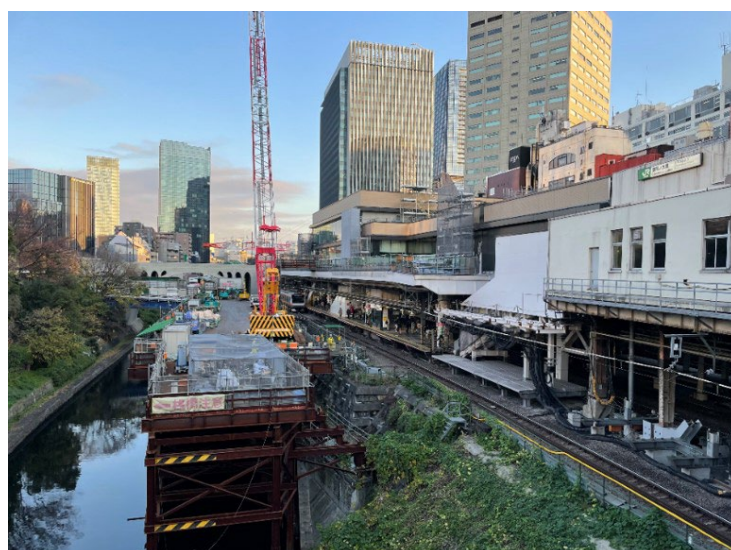
JR御茶ノ水駅は、中央急行線・中央総武緩行線が乗り入れる方向別ホームの乗換駅であり、東京メトロ丸の内線等の乗換駅ですが、ホームの混雑、バリアフリー設備の未整備、聖橋口の広場空間の不足が課題でした。これらを解決する駅改良の実現は古くから検討が重ねられてきており、東日本旅客鉄道(株)はもちろん周辺地域にとっての長年の悲願でした。

駅改良の内容としては、人工地盤と橋上駅舎の新設、ホーム上の昇降設備新設によるバリアフリー化、聖橋口駅前広場の整備といった旅客施設の更新に加え、擁壁（台地側・河川護岸側）の耐震補強工事も同時に実施しました。

当社は、人工地盤、ホーム、昇降設備、擁壁耐震補強、駅前広場、仮設物等、土木工事全般の設計を担当し、御茶ノ水駅の特徴ともいえる制約条件の厳しい立地（神田川と茗溪通りに挟まれ高低差のある狭小地）から、作業ヤードや資機材の搬入経路として神田川内に仮設栈橋の設計をしました。また、桁式化したホーム下では仮土留掘削した空間に低空頭マシン（JET-18）を投入し大口径場所打ち杭を施工する初の試みにより、ホーム上に仮囲いを設けない杭の24時間施工を施工会社と共に計画し実現しました。メインの人工地盤は25m/径間の大スパン、その柱間に昇降設備を縦列配置することで幅の狭いホームにおいてホームドアを設置しながらも旅客通行幅を確保するように計画をしました。その他、台地側における用地境界を越境しない擁壁補強工法など、プロジェクト全体で多くの工夫・提案を形にしました。



御茶ノ水駅 聖橋口改札
（撮影：東日本旅客鉄道（株））



仮設栈橋施工状況
（撮影：鹿島建設・大成建設共同企業体）